

II 指摘と是正の方法の確認

① 型枠：配管貫通部、人通口が未済の場合

→速報でお知らせしますので、施工後の写真をお願いします。(写真1参照)

①遠景で位置が分かるように、②近景で施工の状況が分かるように写真撮影をお願いします。

：金物の変更、鉄筋径の変更、基礎幅の変更 など、図面と相違する場合

→職方様にヒアリングします。たいてい「監督とは確認取れています」と回答いただきます。

その場合、「監督様を通して設計者様・監理者様に確認済」という速報、報告となります。

：基礎ダブル幅

→芯と寸法追い出しはヒアリングをしながら確認します。

② 防水：屋根と壁の取り合い部、軒など

→雨漏り事故が多発するエリアですので、重ね代や隙間に注意してください

：サッシ周り、貫通部周りなど

→雨漏り事故が多発するエリアですので、テープの貼り方、隙間に注意してください

③ 断熱：現地で仕様が違っていた場合

→職方様に現地でヒアリング確認します。変更内容は「監督様、設計者様等にも確認済み」ということで承知いたします。

：軒天付近、梁下など、防水紙の施工により吹付相手がいないことがある。

→大工さんもしくは断熱屋さんが何とかすることになると思われます。

：グラスウールについて

→柱の正面にタッカーが見えるようにしっかりと張り伸ばす。

特に筋交い箇所は筋交いの上からフィルムを施工すること。

：断熱材が濡れている場合(写真2参照)

→指摘します。カビ等の懸念のため、基本的には入れ替えを推奨します。

③ 断熱

・前回報告('21/4/1~'21/9/30)から今回報告('21/11/1~'22/5/31)までで、**約5%改善された。**

【吹付】

- ・指摘の多くは、スキマ、厚み不足。
- ・施工範囲の間違いはほとんどない。
- ・仕上げ材、養生により確認できない箇所がある。
- ・床下断熱材は開口部がある場合のみ確認可能。
- ・是正困難な指摘はほとんどない。

【グラスウール】

- ・壁に詰め込むだけでなく、防湿フィルムをしっかりと柱に止める。
- ・タッカーは柱の側面ではなく正面に。
- ・筋交い箇所は、フィルムを筋交いの上から施工する。
- ・隙間(サッシ周り、コンセント周り、ダクト周り)にもしっかりと断熱材を施工する。
- ・ガレージ天井(外気に接する床面)は表裏逆にならないように注意。
- ・厚み、性能等の仕様の確認。図面と違う場合は必ず一報ください

